

宮城県における子育て支援の実態（1）

— 保育所における地域子育て支援活動 —

杉山 弘子・東 義也・石田 一彦・佐藤 陽子

本研究の目的は、宮城県内の保育所における地域子育て支援活動の実施状況と課題を明らかにすることである。県内の全認可保育所310か所を対象に、2003年度に地域の親子を対象に実施した支援活動について、主に郵送により質問紙調査を行った。回収率は72.6%であった。回答園の約3分の2で地域子育て支援活動が実施されていた。その内の26.4%に子育て支援センターが設置されていた。

センターのない園の多くは、専任のスタッフも専用の場所もない中で、園庭開放や行事参加をはじめ、遊びの会や育児講座などの活動に取り組んでいる。一方、センターが設置されている所では、専任の担当者が配置され、支援活動の内容も実施回数も多い。しかし、遊びの会の内容の組み立てや育児講座の講師の選定など、内容の向上に関わる課題をもっている。また、場所や実施体制など、条件面でも十分とは言えない。保育所における地域子育て支援がいっそう広がり、充実したものになっていくためには、センターのあるなしにかかわらず、保育所が取り組みやすい条件や内容を充実させるための支援体制をどう整えるかが課題と考えられる。

キーワード：保育所、地域子育て支援

<問 題>

1997年6月の児童福祉法一部改正により、保育所は地域の住民に対して、保育に支障がない限りにおいて、乳幼児等の保育に関する相談に応じ、助言を行うよう努めなければならないとされた。その後改訂された保育所保育指針（1999年10月改訂）においても、「通常業務に加えて、地域における子育て支援の役割を総合的かつ積極的に担うことが保育所の重要な役割である」（第13章）として、地域の子育て家庭への支援が保育所の新たな機能として位置づけられた。

こうした背景には、核家族化や地域の人間関係の希薄化により、孤立した子育てに育児不安を募らせる母親たちの存在がある。保育所は子育ての相談に応じ、助言を行うとともに、さまざまな活動を通して親同士が交流し合い、仲間づくりができるよう支援することが求められている。また、地域の住民とともに子どもの育ちと子育てを支える地域づくりを進めることが重要な課題と考えられる。

園や自治体によっては以前から地域のニーズに応えた子育て支援を行ってきたが、地域における子育て支援の取り組みを推し進めたものに、国の少子化対策がある。エンゼルプラン（文部・厚生・労働・建設4大臣合意「今後の子育てのための施策の基本方向について」1994年12月16日）及び「緊急保育対策等五か年事業」（厚生・大蔵・自治三大臣合意、1994年12月18日）を踏まえて、地域子育て支援センター事業等の特別保育事業の展開が図られた。こ

れらは新エンゼルプラン（大蔵・文部・厚生・労働・建設・自治 6 大臣合意「重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画について」1999年12月）を基にさらに推進されることになる。

地域子育て支援センター事業や保育所地域活動事業は国の施策として全国的に広げられてきたが、各園ではこれまで積み重ねてきた保育実践を基盤に、園や地域の実情に応じて多様な形で実施されているものと思われる。また、取り組みが進む中で課題も見えてきているのではないかと考える。本研究の目的は、宮城県内の全ての保育所を対象に2003年度の地域子育て支援活動について質問紙調査を行うことにより、地域子育て支援活動の実施状況と課題を明らかにすることである。地域子育て支援センター事業の実施園に限らず、子育て支援活動がどのように広がっているのか、場所や担当者の配置などの実施形態、支援活動の内容と形態、園外に出向いての支援活動の状況、遊びの会及び育児講座の実施状況と課題を中心に、宮城県における地域子育て支援活動の実態を検討していきたい。

<方 法>

1. 対象：宮城県内の全ての認可保育所310か所（分園4か所を含む）を対象にした。内訳は、仙台市内97か所（公立50か所、私立47か所）、仙台市外213か所（公立173か所、私立40か所）である。
2. 時期：2004年2月末に質問紙を配布し、3月に回収した。
3. 配布と回収の方法：仙台市の公立保育所については、仙台市健康福祉局子ども家庭部保育課を通して配布した。その他は郵送で行った。回収は全て郵送である。
4. 質問紙の構成と分析の対象

質問紙は次の8つの柱からなっている。

- ①保育所の概要と地域子育て支援活動の実施の有無
- ②地域子育て支援活動の実施形態
- ③園内で実施している地域子育て支援活動の内容と形態
- ④園外で実施している地域子育て支援活動の内容と形態
- ⑤遊びの会の実施状況と課題
- ⑥育児講座の実施状況と課題
- ⑦地域子育て支援活動を実施してみたの問題点と今後の課題
- ⑧保育所での地域子育て支援活動についての意見

なお、①で保育所名を尋ねているが、無記名でもよいとした。

今回、分析の対象とするのは、①から⑥である。

<結 果>

1. 回収率

310園中225園から回答があった。回収率は72.6%である。所在地別、公私別に見た内訳は仙台市内が77.3%、仙台市外は65.3%である（所在地無答11）。公私別では公立73.5%、私立69.0%、無答1である。

2. 地域子育て支援活動の実施状況

園児以外の地域の親子を対象とした子育て支援活動を実施しているかを尋ねたところ225園中149園（66.2%）で実施されていた。仙台市内では80%、仙台市外では59.7%が実施していると回答している。実施率を公私別に見ると、仙台市内は公立が92.7%で私立が64.7%、仙台市外は公立が60.3%、私立が56.5%であった。

なお、225園中58園（25.8%）で一時保育が実施されていた。

3. 子育て支援活動の実施形態

支援活動ありと回答の149園中148園を分析の対象とした（質問紙構成②以降無答の1園を除いた）。

1) 子育て支援センターの設置

表1の通り、子育て支援センターを設置しているのは、支援活動をしている園の26.4%である。仙台市内は10%、市外は36.6%となっている。実施している園の公私の内訳は、仙台市内が公立3、私立3、市外は公立25、私立5となっている。

表1 支援センター設置の有無 単位：園（%）

	センターあり	センターなし	無答	計
仙台市内	6 (10.0)	54 (90.0)	0	60 (100)
仙台市外	30 (36.6)	49 (59.8)	3 (3.7)	82 (100)
無答	3 (50.0)	3 (50.0)	0	6 (100)
計	39 (26.4)	106 (71.6)	3 (2.0)	148 (100)

2) 子育て支援の担当者

子育て支援センターのある39園に担当者が配置されている。センターのない106園の内、置いているが44園（41.5%）、置いていないが58園（54.7%）、無答4である。担当者の数は、1名が25園、2名が35園、3名が8園、4名が2園、3～4名が1園、無答12であった。

置いている場合、専任か他の職務との兼任かを尋ねた。表2に示した通り、センターがある所では69.2%が専任で、20.5%が専任と兼任または臨時の組み合わせになっている。一方、センターのない所では専任の回答は2園のみで、他は兼任である。

どのような職務との兼任かを選択式（複数選択）で尋ねたところ、52園中51園から回答があった。最も選択数が多かったのはフリーの31、続いて主任17、クラス担任12、所長・園長6、その他4であった。

表2 担当者は専任か兼任か 単位：園（%）

	専任	専任と兼任	専任と臨時	兼任	嘱託	計
センターあり	27 (69.2)	7 (17.9)	1 (2.6)	3 (7.7)	1 (2.6)	39 (100)
センターなし	2 (4.5)	0	0	42 (95.5)	0	44 (100)
計	29 (34.9)	7 (8.4)	1 (1.2)	45 (54.2)	1 (1.2)	83 (100)

3) 子育て支援専用の場所

子育て支援活動のための専用の場所があるかを尋ねた結果を表3に示した。センターのある保育所の23.1%には専用の場所がない。センターのない所では、場所のない所が91.5%である。

表3 専用の場所の有無 単位：園（％）

	場所あり	場所なし	無答	計
センターあり	30 (76.9)	9 (23.1)	0	39 (100)
センターなし	8 (7.5)	97 (91.5)	1 (0.9)	106 (100)
無答	1 (33.3)	2 (66.7)	0	3 (100)
計	39 (26.4)	108 (73.0)	1 (0.7)	148 (100)

4) 園外に出向いての活動

表4の通り、センターのある所では79.5%、ない所では16.0%が園外に出向いての活動をしている。所在地別では、仙台市内は23.3%、仙台市外は39.0%が実施と回答している。

表4 園外での活動の有無 単位：園（％）

	園外あり	園外なし	無答	計
センターあり	31 (79.5)	8 (20.5)	0	39 (100)
センターなし	17 (16.0)	86 (81.1)	3 (2.8)	106 (100)
無答	1 (33.3)	2 (66.7)	0	3 (100)
計	49 (33.1)	96 (64.9)	3 (2.0)	148 (100)

4. 園内で実施している活動

園内での取り組みについて、活動内容をあげて実施の有無と形態を尋ねた。支援活動ありと回答の149園中145園を分析の対象とした（質問紙構成②以降無答の1園と③～⑥無答の3園を除いた）。項目としてあげた活動の実施率を示したのが表5である。行事参加、園庭開放、情報提供は、センターの有無にかかわらず実施率が8割台から9割台と高い。育児相談と遊びの会は、センターのある所では実施率が高い。育児講座はセンターありの所では7割台に対し、なしの所では4割と差が大きい。園舎開放、クラスの保育への参加、絵本の貸し出しは、センターあり、センターなしの場合とも4割台から6割台である。サークル育成・支援と憩いの広場はセンターのない所では1割未満、ボランティア養成はゼロである。

次に、各活動の実施形態や内容について尋ねた結果を記す。

表5 園内での支援活動の内容 単位：太線上段は園数、下段は％

	園庭開放	園舎開放	行事参加	保育参加	絵本貸し出し	遊びの会	憩いの場	育児講座	育児相談	情報提供	サークル支援	ボランティア養成	全体
センターあり	36	25	34	18	18	34	16	30	36	36	26	16	39
	92.3	64.1	87.2	46.2	46.2	87.2	41.0	76.9	92.3	92.3	66.7	41.0	100
センターなし	89	51	92	60	44	62	8	42	55	89	3	0	103
	86.4	49.5	89.3	58.3	42.7	60.2	7.8	40.8	53.4	86.4	2.9	0	100
無答	2	2	3	2	1	2	0	1	1	2	0	0	3
	66.7	66.7	100	66.7	33.3	66.7	0	33.3	33.3	66.7	0	0	100
全体	127	78	129	80	63	98	24	73	92	127	29	16	145
	87.6	53.8	89.0	55.2	43.4	67.6	16.6	50.3	63.4	87.6	20.0	11.0	100

1) 園庭開放の回数

園庭開放の回数は、週5回あるいは毎日の所が127園中87園（68.5%）、週2～4回が7園（5.5%）、週1回が13園（10.2%）、月1～3回が16園（12.6%）、年2～4回が3園（2.4%）、無答1であった。

2) 園舎内開放の回数

園舎内開放の回数は、週5回あるいは毎日の所が78園中34園（43.6%）、週2～3回が4園（5.1%）、週1回が12園（15.4%）、月1～3回が21園（26.9%）、年2～4回が6園（7.7%）、無答1であった。

3) 参加できる行事の種類

「運動会」「夏祭り」「クリスマス会」「その他」を選択肢として、参加できる行事の種類を尋ねた。129園中の選択数は夏祭りが101（78.3%）、運動会100（77.5%）、クリスマス会26（20.2%）、その他72であった。その他には125件の具体的記載があった。最も多かったのは人形劇で16件、次に焼き芋10件、誕生会9件、ひな祭り9件、豆まき8件の順であった。

4) クラスの保育への参加に昼食時間を含むか

クラスの保育への参加は、昼食時間を含むかどうかを尋ねた。80園中17園（21.3%）が含む、63園が含まないと回答している。

5) 絵本貸し出しの回数

絵本の貸し出しは、週5回あるいは毎日の所が63園中48園（76.2%）、週2～3回が7園（11.1%）、週1回が5園（7.9%）、月1～3回が3園（4.8%）であった。

6) 遊びの会の回数と対象

遊びの会の回数と対象を表6に示した。センターありの場合、週1回以上の開催が半数である。他方、センターのない所では、3分の2が月にして1回未満であり、週1回以上の開催は5%未満である。対象については、地域の親子のみの場合、在園児と一緒にいる場合、両方の場合（地域の親子のみの場合と在園児と一緒にいる場合がある）に分けて記した。センターのある所で在園児と一緒にいる場合のみの所は34園中6園（17.6%）である。他方、センターのない所では62園中35園（56.5%）になっている。

表6 遊びの会の回数と対象

単位：園

	回 数							対 象				計
	月1回未満	月1・2回	月3・4回	週1・2回	週3・4回	週5回以上	無答	地域の人のみ	在園児と一緒に	両方の場合	無答	
センターあり	4	5	4	10	3	4	4	18	6	8	2	34
センターなし	41	17	0	3	0	0	1	10	35	10	7	62
無答	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	2
計	45	23	4	14	3	4	5	28	42	18	10	98

7) 憩いの場開放の回数

憩いの場の開放の回数は、週5回あるいは毎日の所が24園中13園（54.2%）、週3回が2園、週1回が4園、月1～2回が4園、時々が1回であった。

8) 育児講座の回数と対象

育児講座の回数は、年1回から14回までであった。73園中、年1回が23園、年2回が23園、3～4回が11園、5～6回が8園、7回以上が7園、無答1である。1、2回の所が6割を超えている。センターなしの所は42園中20園が1回である。平均は3.1回（無答の1園を除く）で、センターありの所が4.3回、センターなしの所が2.2回である。

育児講座の対象を、「地域の方のみ」と「在園児の保護者と一緒に」の選択肢をあげて尋ねた。結果は表7に示した通りである。センターなしの所では「在園児の保護者と一緒に」のみ

の選択が69.0%である。

表7 育児講座の対象 単位：園

	地域の人のみ	保護者と一緒	両方の場合	無答	計
センターあり	12	10	6	2	30
センターなし	8	29	3	2	42
無答	1	0	0	0	1
計	21	39	9	4	73

9) 育児相談の相談日と担当者

育児相談の相談日は、随時が最も多く92園中54園（58.7%）、週5回あるいは毎日が27園（29.3%）、週2～3回が3園、週1回が4園、年7回が1園、無答3であった。

担当者を選択式で尋ねたところ、最も多かったのは所長・園長で55、次いで主任48、専任の支援担当者29、栄養士23、フリー6、その他16であった。その他には具体的記述が11件あり、保健師あるいは看護師が5件、相談員という記述も1件あった。

10) 情報提供の媒体

情報提供の媒体を選択式で尋ねた。ちらしの選択が最も多く、92（実施園127、72.4%）次いでポスター91（71.7%）、広報48（37.8%）、ホームページ24（18.9%）、その他15であった。その他には具体的記述が15件あった。その内6件が通信・たよりであった。

11) その他の活動

表5に掲げた活動の他に実施している活動があるとする園は5園あった。センターありが3園で、具体的には、子育てボランティアの活用、主任児童員とのふれあい、保育ママへの支援、子育てメールの記述があった。また、センターなしが2園で、子育て葉書通信、世代間交流があげられていた。

5. 園外で実施している活動

1) 遊びの会

地域の親子を対象に園外での活動をしている49園の内、38園で遊びの会が実施されていた。内訳は、センターありの31園中28園（90.3%）、センターなしの17園中9園（52.9%）、無答の1園である。

実施の回数は、週1～2回が6園、月1～4回が9園、年1～8回が17園、年35回が1園である。センターのない園での回数は、月1回、年1回、年6回がそれぞれ1園、年2回が4園、無答が2園である。

場所は公園（11園）や児童館（7園）の他、公民館（8園）や市民センター、保健センターなどがあげられている。

主催は、園単独が21、共催5、園単独と共催の複数選択2、無答10であった。共催者としては、市民センター、児童館、主任児童員などがあげられていた。

2) 育児講座

園外で育児講座を実施している園は26あった。内訳は、センターありの31園中22園（71.0%）、センターなしの17園中4園（23.5%）である。

回数は年1回が8園、2～4回が11園、8ないし10回が5園、14回が1園、無答1である。センターのない4園では、2園が1回、2園が3回であった。場所は公民館が5園、児童館が

2園の他、保健センターや区役所など、地域の公共の施設があげられていた。

主催は園単独が10園、共催が10園、園単独と共催の複数選択2園、無答4であった。共催者は市や町の保健課など、行政の部署が多い。

3) その他

遊びの会と育児講座以外にも園外での活動をしているという園が9園あった（センターあり8、センターなし1）。具体的には自然体験（りんご狩り、いちご狩り、たけのこほり等）や地域の親子運動会、ピクニック等があげられていた。

6. 遊びの会（園内）の実施状況と課題

園内の遊びの会の実施状況と課題について回答のあった101園を分析の対象とした（園内で実施している活動を尋ねた際、遊びの会については無答の12園を含み、無答ではなかったがこの項目記入なしの9園を除く）。センターのある園が35園、センターのない園が64園、無答2である。

1) 時間

時間について回答があったのは92園である。開始時刻は、午後の部が15時開始という場合（1園）を除き、8時30分から11時の範囲であった。終了時刻は次の4例を除き10時30分から12時30分の間である。16時30分までが2園、17時までが2園（先の午後の開始の場合を含む）である。いずれもセンターを設置している保育所である。この4園を除く88園について見ると、10時開始が最も多く、61園である。それを過ぎての開始は5園のみである。終了時刻で多いのは、11時（39園）と11時30分（33園）で、それを過ぎての終了は9園のみである。10時開始11時終了が30園、10時開始11時30分終了が21園となっている。

2) 企画および実施の中心

企画および実施の中心となる職員を選択肢をあげて尋ねた。表8の通り、センターのある所では専任の支援担当者が中心で、クラス担任の選択はない。他方、センターのない所では、主任が46.9%、フリーが43.8%、クラス担任も26.6%選択されている。なお、専任の支援担当者を選択している5園は先に子育て支援担当者について尋ねた際には、兼任（3園）あるいは置いていない（2園）と回答している。

表8 遊びの会の企画および実施の中心

単位：園（%）

	専任の支援担当者	所長・園長	主任	フリー	クラス担任	その他	全体
センターあり	33 (94.3)	5 (14.3)	6 (17.1)	2 (5.7)	0	0	35 (100)
センターなし	5 (7.8)	10 (15.6)	30 (46.9)	28 (43.8)	17 (26.6)	7 (10.9)	64 (100)
無答	0	0	1 (50.0)	1 (50.0)	0	1 (50.0)	2 (100)
計	38 (37.6)	15 (14.9)	37 (36.6)	31 (30.7)	17 (16.8)	8 (7.9)	101 (100)

3) プログラムの内容

プログラムの内容について選択肢をあげて尋ねた。結果は表9に示した通りである。

センターありの場合、手遊び・遊びうたは100%、絵本・紙芝居は97.1%で取り入れられている。製作も85.7%と高い。ゲームとおやつは5割台であるが、他は7割台から8割台となっている。センターなしの場合、8割を超えているのは手遊び・遊びうただけである。絵本・紙芝居と製作、自由に遊ぶが6割台、出席をとると製作が5割台、ゲームとおやつは2割台であ

る。その他を除き、センターのある所の方が全ての項目で選択率が高くなっている。

その他を選択した30園中28園に具体的記述が見られる（計44件）。内容は下記の通りである。（ ）内の数字は件数である。

人形劇（4）、パネルシアター（3）、エプロンシアター（3）、児童文化財（1）、コンサート（1）、ごっこ遊び（1）、お店屋さんごっこ（1）、水遊び（2）、プール（1）、シャボン玉（1）、わらべうた（3）、歌（1）、リズム（3）、体操（1）、園外活動（2）、誕生会（1）、給食（1）、おにぎりタイム（1）、おやつ試食（1）、お茶タイム（1）、行事参加（5）、園全体での遊び（1）、クラス保育への参加（1）、情報交換（1）、紹介（1）

表9 遊びの会のプログラム

単位：園（％）

	出席をとる	手遊び・遊びうた	絵本・紙芝居	製作	運動遊び	ゲーム	自由に遊ぶ	おやつ	その他	全体
センターあり	28 (80.0)	35 (100)	34 (97.1)	30 (85.7)	26 (74.3)	20 (57.1)	27 (77.1)	18 (51.4)	9 (25.7)	35 (100)
センターなし	37 (57.8)	55 (85.9)	44 (68.8)	32 (50.0)	43 (67.2)	15 (23.4)	44 (68.8)	18 (28.1)	21 (32.8)	64 (100)
無答	2 (100)	2 (100)	2 (100)	0	2 (100)	2 (100)	2 (100)	1 (50.0)	0	2 (100)
計	67 (66.3)	92 (91.1)	80 (79.2)	62 (61.4)	71 (70.3)	37 (36.6)	73 (72.3)	37 (36.6)	30 (29.7)	101 (100)

4) 活動の設定や展開における留意点

活動の設定や展開において特に留意している点を選択肢をあげて尋ねた。結果は表10に示した通りである。選択は2つまでとしており、3つ以上選択した11園は無答扱いとした。センターの有無にかかわらず「親子で楽しむ」が最も多い。親同士の交流がそれに次いでおり、センターのある所は78.1%、ない所は49.2%となっている。地域の子どもと在園児のかかわりはセンターのある所では15.6%、センターのない所は41.1%となっている。子どもが楽しむや地域の子ども同士のかかわりの選択は10%台、あるいは10%未満である。その他の選択はなかった。

表10 遊びの会の留意点

単位：園（％）

	センターあり n = 32	センターなし n = 56	無答 n = 2	計 n = 90
親子で楽しむ	28 (87.5)	49 (87.5)	1 (50.0)	78 (86.7)
親同士の交流	25 (78.1)	26 (49.2)	1 (50.0)	52 (57.8)
地域の子どもと在園児とのかかわり	5 (15.6)	23 (41.1)	1 (50.0)	29 (32.2)
子どもが楽しむ	3 (9.4)	7 (12.5)	1 (50.0)	11 (12.2)
地域の子ども同士のかかわり	2 (6.3)	2 (3.6)	0	4 (4.4)

5) 参加人数と登録制の有無

遊びの会1回のあたりの平均の参加者数（親子の組数）と登録制の有無を表11に示した。

参加組数は、全体的に見て20組未満の所が多い（73.3%）。30組以上の回答は、センターがある所だけである。センターのない所では10組未満の回答が半数近く（46.9%）に見られる。

登録制については登録ありの場合と登録なしの場合の二つがあるという回答が1件あった。それを含め、センターのある所では35園中21園（60%）が登録制をとっている。一方、センターのない所で登録制をとっているのは23.4%である。

表11 遊びの会の参加者

単位：園（％）

	1回あたりの参加組数						登録制				計
	1～9組	10～19組	20～29組	30～39組	50組～	無答	登録制あり	登録制なし	両方	無答	
センターあり	4	15	8	6	1	1	20	13	1	1	35
センターなし	30	23	9	0	0	2	15	49	0	0	64
無答	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	2
計	35	39	17	6	1	3	37	62	1	1	101

6) 遊びの会を実施してみたの課題（複数選択可）

遊びの会を実施してみたの課題を複数選択で尋ねた。結果は表12に示した通りである。

センターのある所について見ると、内容の組立に関することが60％で最も多い。次いで場所に関することが45.7％、利用状況が40％、実施体制が31.4％、日常の保育に関することが22.9％になっている。その他の具体的記述の内容は、「してあげる形になっている」「参加人数が多い」「親子3人で参加の場合の託児」「駐車場不足」である。

センターのない所では、利用状況と実施体制に関することが4割台、内容の組立に関することが39.1％、場所に関することが29.7％、日常の保育と案内に関することが2割台となっている。その他の具体的記述の内容は「事故・ケガ等への対応、在園児との交流のもち方等」「職員の充足不足」「地域的に親子より老人の方が多い」であった。

表12 遊びの会の課題

単位：園（％）

	センターあり n = 35	センターなし n = 64	無答 n = 2	計 n = 101
内容の組み立て	21 (60.0)	25 (39.1)	1 (50.0)	47 (46.5)
利用状況	14 (40.0)	30 (46.9)	1 (50.0)	45 (44.6)
実施体制	11 (31.4)	29 (45.3)	0	40 (39.6)
場所	16 (45.7)	19 (29.7)	1 (50.0)	36 (35.6)
日常の保育	8 (22.9)	17 (26.6)	1 (50.0)	26 (25.7)
案内	4 (11.4)	15 (23.4)	0	19 (18.8)
費用	4 (11.4)	10 (15.6)	0	14 (13.9)
その他	4 (11.4)	3 (4.7)	0	7 (6.9)

7. 育児講座（園の内外を含む）の実施状況と課題

育児講座の実施状況と課題について回答のあった80園を分析の対象とした（園の内外で実施している活動を尋ねた際、育児講座については無答の4園を含み、無答ではなかったが、この項目記入なしの3園を除く）。センターのある園が34か所、センターのない園が45か所、無答1である。

1) 育児講座のテーマ

育児講座のテーマについて選択肢をあげて尋ねた結果を表13に示した。全体としては、発達と育児、食事・おやつ、健康・病気のテーマは5割台、遊びは3割台、しつけが2割台、その他1割台となっている。センターのある所について見ると、発達と育児、健康・病気は7割台、遊び、食事・おやつが5割台、しつけが47.1％となっている。一方、センターのない所では、食事・おやつは5割台でセンターのある所と変わらないが、その他を除く他の項目は3割前後低くなっている。

表13 育児講座のテーマ 単位：園 (%)

	センターあり n = 34	センターなし n = 45	無答 n = 1	計 n = 80
発達と育児	24 (70.6)	20 (44.4)	1 (100)	45 (56.3)
食事・おやつ	18 (52.9)	24 (53.3)	1 (100)	43 (53.8)
健康・病気	24 (70.6)	15 (33.3)	1 (100)	40 (50.0)
遊び	19 (55.9)	9 (20.0)	0	28 (35.0)
しつけ	16 (47.1)	5 (11.1)	1 (100)	22 (27.5)
その他	5 (14.7)	9 (20.0)	0	14 (17.5)

その他を選択した14園中13園に具体的記述が見られた(計16件)。その内容を以下に記す。

()内は件数である。

絵本(6)、子育て全般(2)、わらべうた(1)、たこ作り(1)、クリスマスリース作り(1)、コンサート(1)、親子で楽しめる(1)、レクダンス(1)、救急法(1)、メーク(1)
2) 託児の有無

全体の67.5%(80園中54園)が託児をしている。センターありの所では82.4%(34園中28園)、センターなしの所では57.8%(45園中26園)となっている。センターの設置について、無答の1園は託児なしである。実施している全ての園で、託児料は無料となっている。

3) 育児講座の参加人数

1講座あたりの平均の参加人数を尋ねた。結果は表14の通りである。全体の57.5%が30人未満である。センターのある所は10人未満の回答はない。10人台が32.4%あり、他は20人台から50人台まで分散している。センターのない所では10人未満の所が15園あるが、内2園は0(ゼロ)の回答であった。20人未満が半数を超えている。一方で7、80人の園もある。

表14 育児講座の参加人数 単位：園 (%)

1回あたりの平均の人数	センターあり n = 34	センターなし n = 45	無答 n = 1	計 n = 80
0	0	2 (4.4)	0	2 (2.5)
1~9	0	13 (28.9)	0	13 (16.3)
10~19	11 (32.4)	10 (22.2)	0	21 (26.3)
20~29	5 (14.7)	4 (8.9)	1 (100)	10 (12.5)
30~39	5 (14.7)	2 (4.4)	0	7 (8.8)
40~49	4 (11.8)	1 (2.2)	0	5 (6.3)
50~59	4 (11.8)	0	0	4 (5.0)
60~69	1 (2.9)	0	0	1 (1.3)
70~79	0	2 (4.4)	0	2 (2.5)
80~89	0	1 (2.2)	0	1 (1.3)
無答	4 (11.8)	10 (22.2)	0	14 (17.5)

4) 育児講座を実施してみたの課題

育児講座を実施してみたの課題を選択式で尋ねた(複数選択可)。結果は表15に示した通りである。センターありの場合、最も選択率が高いのは講師の選定に関することで61.8%である。続いて、参加状況に関することが44.1%、内容の組み立てに関するものと託児に関するものが3割台、費用に関するものが26.5%である。その他の具体的記述は、「テーマにより参加人数が違う」「参加して来る親の姿勢」「託児枠、場所の広さの問題で受けきれない」である。

センターなしの場合、参加状況に関するものが最も多く、57.8%、講師選定に関すること、

講座の案内に関すること、内容の組み立てに関すること、託児に関することが2割台である。その他の具体的記述は、「地域的に親子が少ないこと、時間帯」であった。

表15 育児講座を実施してみたの課題 単位：園（％）

	センターあり n = 34	センターなし n = 45	無答 n = 1	計 n = 80
参加状況	15 (44.1)	26 (57.8)	1 (100)	42 (52.5)
講師選定	21 (61.8)	13 (28.9)	1 (100)	35 (43.8)
内容の組み立て	13 (38.2)	12 (26.7)	1 (100)	26 (32.5)
託児	12 (35.3)	11 (24.4)	0	23 (28.8)
講座の案内	4 (11.8)	13 (28.9)	0	17 (21.3)
費用	9 (26.5)	8 (17.8)	0	17 (21.3)
その他	3 (8.8)	2 (4.4)	0	5 (6.3)

<考 察>

1. 支援活動の実施状況と形態

回答のあった225園中149園が地域の親子を対象とした支援活動を行っていた。3園に2園が実施しているという結果である。実施園の内、4園に3園はセンターなしで支援活動を実施している。担当者を置いているのはその内の4割で、ほとんどの場合、フリーや主任などの職務との兼任である。また、専用の場所があるのは1割に満たない。専任のスタッフも専用の場所もない中で、多くの園が地域の子育て支援に取り組んでいることがわかった。また、センターがある場合でも4分の1は専用の場所がない中で活動している状況がある。

園外に出向いての活動については、センターのない所でも取り組まれており、センターのある園を中心に、支援活動の場が園外にも広げられつつあることが窺われる。

2. 園内での支援活動

園内での活動は次の四つに分けられよう。一つは、園庭開放、行事参加、情報提供であり、センターの有無にかかわらず多くの園で取り組まれている。二つ目は、遊びの会、育児講座、育児相談である。センターのない園でもある程度取り組まれているが、センターのある園での実施率が高く、差が大きい。三つ目は園舎開放、クラスの保育への参加、絵本の貸し出しである。センターがある場合もない場合も、4割から6割台の実施率で、ある程度取り組みが広がっているものである。四つ目は、憩いの場の提供、育児サークルの育成・支援、子育てボランティアの養成であり、主にセンターのある所で行われている。

保育体制を大きく変えずとも園内の連携で取り組みやすいものと保育所地域活動事業として展開できるもの、さらに、地域子育て支援センター事業の実施施設として専門の職員を配置するなどの体制をとることで実現できるものがあることを反映した結果と考えられる。遊びの会と育児講座の形態からもこのことが窺われる。センターのない所では開催回数が少なく、遊びの会であれば在園児と一緒に、育児講座の場合には在園児の保護者と一緒の形態が主である。

3. 園外に出向いての支援活動

園外での活動を見ると、センターありの場合、遊びの会が9割、育児講座が7割で実施されている。センターなしの所では、それぞれ5割と2割を超える程度であった。また、遊びの会、育児講座とも開催回数は多くない。専任の担当者がいない中で、活動を園外に広げることの難

しさが窺われる。

園外での育児講座は半数が共催の形をとっている。園外で実施するのは子育て家庭の近くに場を設けることで親子が参加しやすいようにするためであろうが、関係機関が連携して取り組むことにより、ネットワークづくりが促進されるのではなかろうか。

4. 遊びの会（園内）の実施状況と課題

遊びの会（園内）はほとんどが午前中の開催である。多くは10時には始められ11時30分には終了している。企画および実施の中心はセンターのある所では専任の支援担当者であるが、センターのない所では、主任やフリーが多く、クラス担任が担う場合もある。プログラム内容の種類はセンターありの場合に比べて少ないが、園内で役割を分担しながら取り組んでいることがわかる。

活動の設定や展開においては、親子で楽しむことが最も重視されている。親同士の交流がそれに次いでおり、センターのある所ではこの二点に留意点が集まっている。センターのない所では、親同士の交流を選んだのは半数ほどで、地域の子どもと在園児とのかかわりも4割台になっている。先に見たように、遊びの会が在園児と一緒に形態で実施されていることが多いことと関連した結果と考えられる。センターの有無にかかわらず、「子どもが楽しむ」や「地域の子ども同士のかかわり」の選択は少ない。二つまでの選択としたために選べなかったことであろうが、親子や親同士の交流に主たるねらいが置かれていることがわかる。

1回の参加者は20組未満が多いが、センターのない園では半数近くが10組未満である。センターのある所では30組以上、中には50組を超える所もある。登録制をとっているのは、センターのある所で6割、センターのない所では2割台という状況である。

遊びの会を実施してみたの課題では、センターのある園の6割が内容の組立に関するものを選択している。多くの内容がプログラム化されていたが、どのような点が課題となっているのか、さらに詳しく尋ねたいところである。場所や実施体制に関するものもそれぞれ4割台、3割台で選択されており、センターのある所でもこれらの条件が十分ではないことを示している。利用状況については、参加人数が多いことへの対応を課題としているのか、少なすぎることを問題にしているのかを直接的に聞いていない。選択園14を参加組数との関係で見ると、1～9組が4、10～19組が7、20～29組が1、30～39組が2となっていて、どちらの場合も考えられる。

センターのない所では、利用状況、実施体制、内容の組立、場所に関するものが3割近くから4割台で課題として選択されている。利用状況を選択した30園を参加組数との関係で見ると、1～9組が22、10～19組が6、20～29組が1、組数無答が1となっている。さらに言えば30園中27園が10組以下である。センターのない所では、利用状況が少ないことが問題になっている場合が多いと考えられる。

センターの有無にかかわらず、日常の保育に関するもの選択が2割台になっている。重要な問題であり、詳しい内容を聞き取ることで、保育所で地域子育て支援を行うための条件を明らかにしていく必要があると考える。

5. 育児講座（園の内外を含む）の実施状況と課題

育児講座のテーマに関しては、センターのない所では実施回数が少ないためにテーマの選択数も少なくなっていることが考えられる。限られた回数の中では、発達と育児、食事・おやつ、健康・病気のテーマが取り上げられることが多かったということであろう。託児を行う園はセ

ンターありの場合は8割を超え、センターなしの場合も6割近く見られた。託児料は無料である。託児に関しては3割弱が課題として選択しているが、実施しているかどうかでの違いはなかった。

育児講座を実施してみてもの課題として一番多く選択されたのは、参加状況に関することであった。参加人数を多いと見るか少ないと見るかは内容やねらいによって違ってくであろうが、平均の参加者数が10人未満の15園の内11園が参加状況に関することを選択している。いずれもセンターのない園であるが、この場合は参加人数が少ないことを問題ととらえているものと考えられる。また、センターのあるところで最も多かったのは、講師の選定に関することである。実施回数が多いことと関係しているのかもしれない。

6. 保育所における地域子育て支援の実態

センターの設置されていない園では専用の場所や専任の担当者などの条件がない中で、兼任で役割を担い、園児の保育や保護者への支援と一緒に進める形態も取りながら、可能な限り地域子育て支援に取り組んでいる状況が見られる。一方、センターが設置されている所では、専任の担当者が配置され、支援活動の内容も実施回数も多いが、遊びの会の内容の組み立てや育児講座の講師の選定など、内容の向上に関わる課題をもっている。また、場所や実施体制など、条件面での課題もある。保育所における地域子育て支援がいっそう広がり、充実したものになっていくためには、センターのあるなしにかかわらず、保育所が取り組みやすい条件や内容を充実させるための支援体制をどう整えるかが課題と考えられる。

<文 献>

- 1) 植田章『はじめての子育て支援』かがわ出版, 2001
- 2) 大場幸夫(子育て支援研究会) 著者代表『育つ・ひろがる子育て支援』トル出版部発行、生活ジャーナル発売, 2003
- 3) 小川富士枝・小野枝美子・小野ともみ・田中和子「仙台市の保育所における子育て支援の実態」仙台保育問題研究会編集・発行『みやぎの保育』第六号 pp.34-47, 2001
- 4) 垣内国光・櫻谷真理子『子育て支援の現在』ミネルヴァ書房, 2002
- 5) 柏女霊峰『子育て支援と保育者の役割』フレーベル館, 2003
- 6) 金谷京子・坪井敏純・吉田ゆり「子育て支援の限界と今後の課題－保育所を中心とした子育て支援活動の調査から－」『保育学研究』第43号第1号 pp.63-75, 2005
- 7) 桑名恵子編著『子育て支援のネットワークづくり』明治図書, 1999
- 8) 子育てセンター実践研究会・編『子育て支援実践報告61』生活ジャーナル, 2000
- 9) 新澤誠治・今井和子『家庭との連携と子育て支援』ミネルヴァ書房, 2000
- 10) 吹田の子ども総合政策づくり専門員会編『地域からつくる子育てネットワーク－児童福祉法改正と吹田の子ども総合政策－』自治体研究社, 1997
- 11) 永治次代「吹田市の公立保育園における子育て支援活動1 吹田市子育て支援センター事業のあゆみ」保育研究所『保育情報』No.270 pp.2-6, 1999
- 12) 永治次代「吹田市の公立保育園における子育て支援活動2 吹田市子育て支援センター事業の連携」保育研究所『保育情報』No.271 pp.35-41, 1999
- 13) 乳児保育研究会『新版 資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房, 2005
- 14) 橋本真紀・扇田朋子・多田みゆき・藤田豊子・西村真実「保育所併設型地域子育て支援センターの現状と課題－A県下の地域子育て支援センターの職員と地域事業担当者、保育所保育従事者の比較調査から－」第43号第1号 pp.76-89, 2005
- 15) 松原康雄「子育て支援のための地域づくりと保育所の役割」全国社会福祉協議会発行『保育の友』第51巻第5号 pp.22-26, 2003

< 謝 辞 >

調査にご協力下さいました仙台市健康福祉局子ども家庭部保育課ならびに宮城県内の保育所のみなさまに深く感謝申し上げます。

< 付 記 >

本稿で分析の対象とした質問紙調査は、筆者らと本学保育科の森彬教授の共同研究として実施したものであることを付記いたします。